

## 令和6年度 第1回国立大学法人徳島大学契約監視委員会議事概要

開催日及び場所	令和6年12月6日(金) 徳島大学新蔵本部第2会議室	
委員(敬称略)	委員長 小西 竹生 (青藍会事務局事務長) 委員 森 晋介 (弁護士) 委員 秋山 靖夫 (徳島検診クリニック事務長) 委員 三好 敏之 (徳島大学監事) 委員 井関 佳穂理 (徳島大学監事)	
審議対象期間	令和5年10月1日～令和6年9月30日	
審議案件(/期間内対象案件)	18件/162件	(備考) ・意見、質問に対する回答部署 学術情報部図書情報課 経理部常三島会計課 経理部蔵本会計課 病院事務部経理調達課
随意契約	8件/47件	
一般競争契約	10件/115件	
委員からの意見・質問及びそれらに対する回答	意見・質問	回 答
	別紙のとおり	別紙のとおり

## ●議題1 委員長の互選について

互選の結果、小西委員が委員長に選出された。

議題2に先立ち、審議対象期間の契約の傾向について、委員長から以下のとおり説明があった。

- ① 随意契約は、契約件数、落札率100%の件数とも減少したが、契約件数そのものが減少したため、割合としては高くなった。
- ② 一般競争契約は、1者応札の件数・割合共に増加傾向にあり、昨年に引き続く更なる改善には至っていない。

## ●議題2-1 競争性のない随意契約における随意契約事由及び契約価格の妥当性について（審議8件／対象47件）

- |  |
|--|
| (1) 外来診療支援システム保守等業務 (NO. 46)           |
| (2) テラヘルツ波発生用二波長レーザー位同期システム (NO. 11)   |
| (3) 反射測定用近赤外分光システム (NO. 12)            |
| (4) 3年連続随意契約かつ同一業者と契約締結に至った案件 (全体)     |
| (5) ゲノム編集ブタ作出試験業務請負 (NO. 25)           |
| (6) 超音波骨折治療器 外の賃貸借 (NO. 24)            |
| (7) 照射人全血液-LR「日赤」200mL由来 外23品 (NO. 34) |
| (8) 放射性同位元素及び放射性医薬品 (NO. 35)           |

### (1) 外来診療支援システム保守等業務 (NO. 46)

主な質問	回答
随意契約理由は理解できる。随意契約によろとして年々契約金額が減少しているようだが、提供される業務内容の違いなどがあるのかも含め理由を教えてください。	本件は外来診療にかかるサーバ、ネットワーク等の保守であるが、その契約金額減少理由としては、部品対応終了などを理由に保守対象品が年々減少しているためである。
主な委員コメント	
見方によっては、これほど金額（保守物品）を減少させながらも病院サービスを保っている、と見ることもできる。次回契約時には全ての要望を汲むのではなく予算状況を見ながら最低限で動くような仕様書を策定するというのも考えてもよいのではないか。	

(2) テラヘルツ波発生用二波長レーザー位相同期システム (NO. 11)

主な質問	回答
昨年、テラヘルツ波発生システム一式を別メーカーから随意契約で購入しているが同様の機器であれば競争も可能ではないか。全く異なる機器であれば問題ないと思われるが検討しているか伺いたい。	昨年の機器とは全く異なる機能を持つ機器である。そのため、機種選定委員会では昨年度契約のメーカー製品との比較は行っておらず、求める用途、機能を持つ他メーカーの製品との比較の結果、今回のメーカー製品を選定している。

(3) 反射測定用近赤外分光システム (NO. 12)

主な質問	回答
随意契約の理由について、本機器が製造元である業者からしか購入することができないとなっているが、本機器を選定した理由も必要と思われる。別途、機種選定委員会議事には書いてあるのかもしれないが、他の契約案件の記載方法のように、特に複数の機器について機種選定委員会で検討したのであれば、この機種でなければ要求要件を満たさないがゆえに選定された旨も併せて明記すべきでは。	他の契約案件の記載方法と同様に、選定理由も併せて記載するようにする。

(4) 3年連続随意契約かつ同一業者と契約締結に至った案件 (全体)

主な質問	回答
単年度契約→複数年度契約とすれば価格面、事務の省力化等メリットがある。保守、賃貸借など複数年契約への検討を行っているか。	雑誌については、できるものは複数年度契約としており、残りを単年度契約としてはいるが3年を見越した率の提案で契約を行うようにする等、案件の特性、費用対効果を含め検討を行っている。また、NO. 38教務システム再リース は検討の結果複数年に切り替え、少額ではあるが価格面でも成果があった事例である。
主な委員コメント	
5年リースを考えた際に機械が7年保つというのであれば2年の再リースを条件に7年トータルで価格交渉することもできる。予算都合により再リースとせざるをえない大学の状況も理解でき、契約書にも当該条件の記載があるかと思うが、リース会社にとって再リース自体が有利な取引となるため、その辺を踏まえつつ契約に臨まれてはどうか。	

(5) ゲノム編集ブタ作出試験業務請負 (NO. 25)

主な質問	回答
他大学実績がない中で、契約価格の妥当性を検証する根拠は何か適切か。	全く同一の作業ではないため他大学実績としてはカウントをしていないが、本学同様にオーダーメイド式の請負業務を行っている他大学の案件を参考に価格帯の検証を行うこと、また、本学の別契約の単価を参考に業者見積りの検証を行うことなどが現時点では妥当だと考えている。

(6) 超音波骨折治療器 外の賃貸借 (NO. 24)

主な質問	回答
3年連続で同一業者と契約に至っている。本件に係る市場調査の内容についてお聞かせいただきたい。 また、一般競争への検討及び随意契約理由の検証、取組に対する検証の実施があつての今回の随意契約理由だと思うが、その具体的な内容をお聞かせいただきたい。	本件の市場調査としては7大学の実績と業者参考見積金額とを品目毎に比較し、品目によっては同値となることもあるが、その中で常に最安値となるものを採用している。随意契約するか否かについては毎年検討を行っているが、患者の病状・状況に応じ医師が機器を選定していること、患者は病状の変化等特別な場合を除き当該機器を長期間継続使用することとなること、加えて在宅療養のため機器の点検等で業者が直接患者の自宅を訪問することもありQOLの観点での判断が必要とされることなどを勘案し、結果として随意契約に至っているものである。

(7) 照射人全血液-L R「日赤」200m L由来 外23品 (NO. 34)

(8) 放射性同位元素及び放射性医薬品 (NO. 35)

主な質問	回答
経年比較したところ金額(所要見込)が著しく増加しているが、単価の上昇によるものか、予定数量の増加によるものか。	両案件とも全国統一価格商品であるが、薬価、他大学実績等にて価格調査を行った上で契約を締結している。 著しい金額(所要見込)の上昇については、どちらも予定数量の増加によるものである。血液製剤においてはA診療科での手術件数の増加、B診療科での移植症例の状況によるものであり、放射性医薬品においては、C診療科における当該医薬品を使用する症例の増加が理由としてあげられる。

主な委員コメント

契約とは全く関係のないコメントとなるが、特殊な症例、手術が増加してきたとなれば、経営に大きく響く可能性があるので、契約部門からも病院の経営部門へ情報共有を行っていただけたらと思う。

●議題3-1 一般競争入札における競争性の確保及び1者応札・応募の改善方策の妥当性について（審議10件／対象115件）

- (1) 磁気共鳴画像診断装置システム (NO.115)
- (2) 高速液体クロマトグラフ質量分析システム (NO.7)
- (3) 超音波画像診断装置 (NO.96)
- (4) 電動リモートコントロールベッド (NO.102)
- (5) オシロスコープ (中古品) (NO.49)
- (6) 2024年版外国雑誌 (NO.10)
- (7) フローサイトメーターアップグレード (NO.91)
- (8) 医療用消耗品 (アテスト超短時間判定プロセスチャレンジデバイス 外383品) (NO.63)
- (9) 医薬品 (アムブトラ皮下注25mgシリンジ 外413品) (NO.75)
- (10) 医薬品 (ゴナトロピン注用5000単位 外446品) (NO.113)

(1) 磁気共鳴画像診断装置システム (NO.115)

主な質問	回答
様々な医療機関で導入されているという意味では汎用的と思われるにもかかわらず、「技術面に対応しきれない仕様等があった」との理由で辞退があったようである。金額も高額であるため、競争機会を失わせる非合理的な仕様設定がなされていなかったか説明いただきたい。	本件は仕様策定にあたり官報にて資料招請、意見招請を行い、複数メーカーに門戸を開いた内容での策定となっている中で、結果的に1者応札となった案件である。ご質問中の「辞退」は本学が必要とするスペックの不足によるものであり、要件を満たすことができる者が他に複数あることは資料招請等で確認している。それらが入札に参入しなかった理由は不明であるが、基本的仕様(=必須項目)は満たしているものの総合評価方式(入札価格に加え、性能・機能・技術等を総合的に勘案する入札方式)にて設定の加点項目(=任意項目)に技術面の評価があり、このことにより価格点との差を埋めることができない、と判断した可能性はある。

主な委員コメント

・総合評価の方法については了解した。だとすれば、価格以外に重要視した機能・技術の部分がどれだけ本質的なところであったかということになる。そういった点にも注意して今後も仕様書を策定いただきたい。  
・入札時には、事前に1年後の保守金額についても徴取の上比較するなどの交渉を行っていただきたい。

(2) 高速液体クロマトグラフ質量分析システム

主な質問	回答
本件は（落札率が低く）競争性が発揮された事例と思われる。調達担当者の参考となるよう、契約に至る経緯を説明いただきたい。	今回4者に入札説明書を配布しその内2者からの応札があった。本学での納入実績が複数メーカーあり取扱う代理店もそれぞれに存在する機器であることから、対抗の存在があったことが安価な契約に繋がったと言える。その意味ではやはり仕様策定委員会において仕様書を練り込んで作成したというところが大きいのではないかと考えている。
主な委員コメント	
仕様書策定時における好事例として他の契約部門でも参考にさせていただきたい。	

(3) 超音波画像診断装置 (NO.96)

主な質問	回答
本装置は病院での調達件数が多いため、昨年委員会にて予定価格の算定時には学内連絡を密にし購入すべきとコメントしたが、今回は参考にされたか。	病院実績も参考にしている。

(4) 電動リモートコントロールベッド (NO.102)

主な質問	回答
電動ベッドは各メーカー共に大きな差異はないと思われるところ、入札説明書配布業者、応札業者ともに1者である。何か特別な仕様があるのか。	電動ベッドは汎用品ではあるが、本院ではベッドを20年間使用していることから、機種選定時には強度を重要視している。鋼、樹脂との比較やリサイクル可能な部品の使用など必須と考える項目の設定により、結果的に1者応札となった案件である。

(5) オシロスコープ (中古品) (NO.49)

主な質問	回答
中古品の積算は通常の新品の物品購入にはない方法をとっているかと思うが、本件ではどのような点に着目して積算を行ったか。	中古品であるため、製造販売当時の情報や他大学実績を用いたものに減価償却計算を行っている。

(6) 2024年版外国雑誌 (NO. 10)

主な質問	回答
他国立大学照会結果29機関実績なしとなっているが、照会内容は適切か。	条件としては「一般競争入札で単価契約を行っているもの」で実績照会をかけているが、外国雑誌はその特性から出版社や取扱業者毎に束ねて随意契約を行う大学が一般的で、一般競争入札を行う場合も総価入札である事が多く、実績なしの回答となっている。本学では平成30年度に随意契約から一般競争入札への見直しを行っている。本学と同規模以上での大学で単価毎の競争入札を行っているところがない理由は品目数が多いことによる手続き上の煩雑さであると思われるが、本学では品目数が年々減少していることで取り回せている状況である。入札手続きには手間がかかっているが競争は働いていると考えている。

(7) フローサイトメーターアップグレード (NO. 91)

主な質問	回答
市場調査、応札業者の確保方法はどのように行っているか、好事例として紹介いただきたい。	特別なことは行っていないが、市場調査の段階で参考見積を多く取り入札参加への声かけへ繋げることができるよう行動したこと、本学への納入実績が多い機器であったこと、且つ対抗の存在があったことが功を奏した事例だと考えている。

(8) 医療用消耗品(アテスト超短時間判定プロセスチャレンジデバイス 外 383品) (NO. 63)

(9) 医薬品(アムブトラ皮下注 25mg シリンジ 外 413品) (NO. 75)

(10) 医薬品(ゴナトロピン注用 5000単位 外 446品) (NO. 113)

主な質問	回答
医薬品、医療用消耗品の調達手続き(品目の選定方法、一般競争となる基準、入札方法)について。	本学の規則上は500万円以上が一般競争入札対象であるが、少額随意契約手続き事務の繁雑さを鑑み予定数量換算300万円以上の品目を敢えて一般競争入札にし、手続きの1本化を図っている。また、品目毎の入札であり、価格交渉は2回(上期、下期2回の入札)である。品目の選定は医療材料委員会、薬事委員会で行われており、各委員会にて諮り承認されたものしか病院では使用できないことになっている。

### ●議題3-2 一般競争入札 令和6年度「検査試薬」における重点取組の報告(審議1件)

審議に先立ち、契約部門から以下のとおり説明及び報告があった。

- ・ 重点取組の内容として、令和6年度入札を実施するにあたり、事実上の1者入札となっている点を課題として捉え、「複数者入札の品目割合」の具体的目標値を掲げるとともに、チャレンジ(複数者入札を目指す)品目を設定し取り組んだところ、成果として当該目標値を達成することができた。
- ・ 目標としていた応札品目数は飛躍的に改善されたものの、全品目において前年度から引き続いての相手方と同値の契約となる点は変わらず、また、2番手との価格差も大きい状況であった。
- ・ 入札参加への働きかけは個別にも続けていきたいところだが、今年度からの新たな取り組みとして、全国病院長会議にて、当該検査試薬のカテゴリーにおける大学病院の共同交渉が始まり、全国一体となって取り組んでいくこととなった。

#### 主な委員コメント

- ・ 報告にあったとおり、42大学病院だけではなく私学、企業も含めた規模による全国的な共同交渉だと聞いている。医療材料、医薬品に続き、検査試薬がこのような交渉対象となることをもって大学独自の重点取組を終了し、病院長会議の交渉力に期待したいと考える。
- ・ (上記コメントを受け) 大学独自の重点取組の報告を終了することに異存はないが、新たに始まる全国病院長会議での交渉の結果については報告をいただきたい。

### ●委員からの要望事項等

- ・ 議題資料2-1について、3年連続で同一業者と契約しているものは、今回資料より年度毎の契約額について記載することで経年比較できるようになった。追加の依頼となるが、契約件名だけではなく情報を補足する欄を設ける等、更なる資料の充実をお願いしたい。(具体的な方法、記載内容については委員長と相談の上、検討を行うこととした。)
- ・ 議題資料3-1について、1者応札も含めた全案件を契約日順で並べていただいているが、例えば、現行の並びの中で1者応札案件は抽出し表頭に集めるなどすれば、より議題の内容について精査しやすいと思われる。
- ・ 議題資料3-2については、作成の観点を変更することとし、病院長会議での交渉の結果について任意様式にて引き続き議題資料として作成願いたい。
- ・ 徳島大学予算のそれぞれ5-6%が本委員会の契約案件を含む教育や研究用の物件費で執行されていると聞いている。契約部門が契約金額を抑えることができれば、それを原資に新たな教育・研究活動や学生の学びの環境整備への還元という形で大学へ寄与することができる。このことを念頭に、引き続き取り組んでいてもらいたい。

### ●その他

- ・ 議事概要を大学HPで公開することとした。